

図書館だより

目次

巻頭言 心の健康	—坂本 清恵	1
著作紹介 飯田文子・松月弘恵編著『あすの健康と調理： 食生活の彩りを豊かに』新編	—飯田 文子	2
著作紹介 桑嶋晋平著『勝田守一と京都学派—初期思 考の形成過程と忘却された思想の水脈』	—桑嶋 晋平	3
ケルムスコット・プレス版ウィリアム・モリス著『輝く 平原の物語』（1891年版）	—川端 康雄	4
上代平和文庫購入資料紹介		6
図書館でお待ちしています！	—中澤 恵子	7
「挑戦」を応援する図書館	—荒木 奈々	8
図書館での学び	—半田 智祥	8



旧図書館のたたずまいと桜

心の健康

坂本 清恵

朝の通勤時、歩きながら、あるいは電車の吊革につかまりながらおにぎりを食べる女性を、またバス停で買ったばかりの塩パンを頬張る女性を、たて続けに目にしました。それが皆、若い社会人女性であったことに衝撃を受け、これは女性活躍の象徴なのか、それぞれ、さぞかし忙しい日々を送っているのだろう…と思いました。朝飯を抜くのはよくないと教育が行き届き、こうした光景が普通に出現する時代になっていくのでしょうか。公共の場において、立ったまま、歩きながら食事を摂ることが、今後新しいトレンドとして定着してしまうのも、どうしたものかと思います。

いま「朝飯」と書いてしまいましたが、「朝ごはん」あるいは「朝食」という言い方のほうが多いかもしれません。一日二食だった時代には、「あさけ」「ゆうけ」あるいは「あさめし」「ゆうめし」、「あさはん」「ゆうはん」などの二項対立でした。それが江戸時代に入り、三食時代になると「あさ」「ひる」「ゆう（ばん）」の「あさめし」「ひるめし」「ゆうめし（ばんめし）」、あるいは「朝食」「昼食」「夕食」、「朝ごはん」「昼ごはん」「夕ごはん（晩ごはん）」となりました。それが近年、急速に使われ出したのが「よるごはん」という言葉です。（参考：橋本行洋「語彙史・語構成史上の「よるごはん」」『日本語の研究』3巻4号, 2007年）「あさ」「ひる」「ばん」よりも、「あさ」「ひる」「よる」の三項対立が、一般的になってきたことによるのでしょうか。

もともと和語の「よる」は複合語を作りやすく、複合する場合は「よ」が使われました。「夜なべ」「夜中」「夜通し」などです。また、「夜食（やしよく）」は夕食後、寝るまでの間の間食として定着し、「夕飯」に代わる言葉とはなりえず、「晩ごはん」に代わり、「夜ごはん」が登場して定着したとみられ、現在、Google trendsでも、圧倒的な使用状況が認められます。

いずれにせよ、学生の皆さんには、朝の食事を欠くことなく摂っていただきたい。図書館内は長らく飲食が禁じられていましたが、昨今は、熱中症予防のため水分補給が必要であることから、飲み物の持ち込みが許容されるようになっていきます。ペットボトルや水筒など、完全に蓋が閉まる容器に入った飲み物に限り、持ち込んで飲むことができます。ただし、本を開きながらの飲食は認められていません。図書館で借りた本を自宅で読む場合にも、「ながら飲食」は避けていただきたい。近年では、年に10冊を超える、飲食による貸出本の汚損事例が出来ています。

摂食による体の健康維持のみならず、読書による心の健康維持をと、願っています。

（図書館長・日本文学科教授）

著作紹介

飯田文子・松月弘恵編著『あすの健康と調理：食生活の彩りを豊かに』新編 飯田 文子

本書は、1998年に出版された『あすへの調理』から始まる改訂3冊目の調理学実習書である。著者14名のうち11名が日本女子大学出身者であり、日本女子大学食物学科での調理学実習のレシピを多く掲載している。著者が学生の頃（46年前）の調理学実習は、日本調理研究室の先生が日本料理と中国料理を教授し、西洋調理研究室の先生が、西洋料理を教えられていた。現在は、食物学専攻（4月から食科学科）と管理栄養士専攻（4月から栄養学科）それぞれに適した授業内容が組まれている。当時は板書や掲示、または青刷りプリントで授業が行われ、授業開始前にレシピをノートに書き写し、授業中は先生の師範を一言一句逃すまいと必死でメモを取ったことが思い出される。しかし、25年前に日本女子大学出身の先生方が、他大学で調理学実習を行うにあたり、日本女子大学のレシピを掲載した本が欲しいという需要が高まり、冒頭の『あすへの調理』を作成するに至った。そのころ、調理学実習書の主流であった、文字のみで料理の作り方を説明されているのはわかりにくい、との指摘から、だれにでも料理が作成できるように、フローチャートを導入した。さらに、西洋料理に関しては、その料理の生まれた国での料理名の表記をできるだけその国の言語で（主として英語とフランス語が多いが）記し、辞書等で調べ学習がしやすいようにした。



日本女子大学の調理学実習とは、開校当初から行われていた歴史あるものである。明治時代には、西洋料理はめずらしく、鹿鳴館や華族会館の料理長が教授したので、家庭料理ではなく、饗宴の料理が主体であった。日本料理は、当初本膳料理が教授されていたが、昭和になり、会席料理が教えられるようになった。著書としては、大岡蔦枝先生の日本料理、西洋料理、支那料理としてまとめられ、新制大学前の日本女子大学の調理学実習のレシピを残している。その後の先生方は通信教育部のテキストを書かれているが、通学課程では、先述のように本は使用していなかった。

『あすの健康と調理』では、第1章が献立の理論と調理の基礎、第2章は、日常の和洋中の料理献立、供応食（行事食）の調理、第3章は大量調理やライフステージの調理と分れており、調理に必要な知識がコンパクトに1冊にまとめられている。この本を実習していくと、はじめは、日常食の操作法（切り方や加熱方法）、各種米料理、だしの種類と取り方等、各食材の扱い方など基本の調理を学ぶ。後半の供応食では、クリスマス料理、お正月料理、正餐の献立や会席料理が実習できるようになる。また、最終章では、幼児食から高齢者食など必要に応じたライフステージの調理を学ぶことが出来る。

本書の特色は、献立形式になっているのが特徴である。献立（メニュー）とは、その人ひとりが一食で食べる料理が供卓順序に書かれているもの、と定義される。それが様式別（日本料理様式、西洋料理様式、中国料理様式）に掲載され、それぞれの盛り付けやテーブルセッティングについても解説されている。様式別の料理の特徴を理解し、それぞれの様式に合った献立が作成できることを目標としている。現代では、折衷料理が主流であるが、それぞれの料理の特徴および背景を知り、食文化を考慮しながら家庭での調理に応用出来ることは、それぞれの目的や家庭の嗜好、また体質に合った料理を考え出すことにつながる。また、料理のフローチャートは、主軸となるものに後から加えるものや調味料を入れるタイミングなどの順序や時間がわかりやすく記載されている。

本書により、日本女子大学伝統のクリスマス料理・お正月料理をはじめ、おもてなし料理や会席料理を作成していただけたら幸いである。
（食物学科（新年度より食科学科）教授）

著作紹介

桑嶋晋平著『勝田守一と京都学派——初期思考の形成過程と忘却された思想の水脈』
桑嶋 晋平

「勝田ってひとのことばかり書いてるじゃん！」——ある授業で、学生がこんな発言をしていました。1年生むけの授業で、断片的な情報からわたしの書いたある論文を探す、という課題をだした時のことです。「勝田」というのは、本書の題にある、教育学者・勝田守一（1908-1969）のことです。その学生は、わたしの research-map に「勝田守一における何々」といったタイトルがならんでいたので、冒頭の発言をしたようでした。あることがらにこだわって、いくつも論文を書くというのは、研究者にとってごくあたりまえのことのようですが、その学生には奇妙に映ったようです。

勝田のテキストを読みはじめた頃、正直なところ、「おもしろい」というよりも、「なにをいっているかよくわからないけれども、どこか気になる」とおもっていました。なにが気になっていたのか、当時はうまく言語化できていませんでしたが、つぎのようなことであつたとおもいます。勝田は、戦後日本を代表する教育学者のひとりとして知られています。一般には、55年体制下に戦後教育改革の理念が後退し、反動的な教育政策がうちだされるなか、政治や経済に従属しない教育のありようを模索し、教育固有の価値をみいだそうとした論者として理解されてきました。他方、1980年代くらいから、勝田の議論はおおくの批判をうけました。政治状況の変化や、教育自体に要因をもつ問題（たとえば、不登校）が噴出するなかで、勝田の議論は、教育と教育学に閉塞をもたらすものとみなされたのです。2000年代後半に教育学を学びはじめたわたしは、勝田にたいする批判に共感しつつも、それでもなお教育について語るにはどうしたらいいのだろうか、とかがえていました。

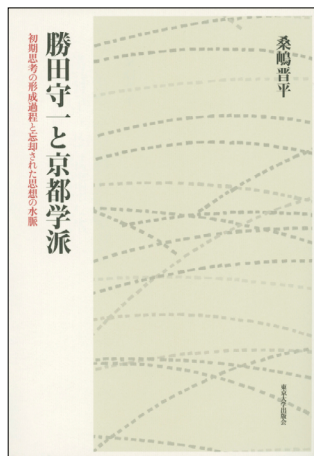
この問いにこたえるうえでは、まずもって閉塞をもたらす原因を勝田のテキストのなかに探る必要があるとかがえました。同時に、勝田の思考は、一般に理解されているよりもおおくのことがらをふくんでおり、そこには別様の可能性もあるのではないかと、ともかんじていました。

では、その可能性をどのように見出せばよいのか。その糸口になったのが、京都学派でした。勝田はもともと、京都帝国大学文学部哲学科という京都学派の思想圏で哲学を専攻していました。別様の可能性は、この出自をたどることであきらかにすることができるのではないかと、そのようにかんがえ、初期の思考へと目をむけはじめました。著作集の目録にも載っていない論文を見つけたり、教え子たちが勝田について記したものを拾いあつめたり、また、松本に出むいて、旧制高校の教師だった頃の講義録を見つけだしたりしながら、地道にその思考を読み解いていきました。このようなこだわりの結果が、本書です。

TikTokの動画のように、次々とものごとが移り変わっていく現代社会では、わからないものよりもわかりやすいものがよいし、なにかにこだわるよりも変化に柔軟に適應していくのがうまく生きるということなのかもしれません。しかし、そのような時代だからこそ、なにごとかにこだわって、立ち止まったり、行ったり来たりをすることが、よりいっそう重要であるようにもおもわれます。そして、こだわることのきっかけは、「どこか気になる」というような、ごく身近なところにもあるようにおもいます。本書が、なにごとかにこだわってそれを深めていくことへの誘いになれば、わたしにとっては望外の喜びです。

(教育学科・准教授)

2021年3月 東京大学出版会発行 289, 25頁 *図書館目白所蔵, 請求記号371.21-Kat



ケルムスコット・プレス版ウィリアム・モリス著『輝く平原の物語』（1891年版）

川端 康雄

今回はケルムスコット・プレス（以下、KPとも略記する）の最初の刊本となった『輝く平原の物語』を紹介したい。

モリスは1890年のうちに最初の活字（ゴールデン・タイプと名づけられる）をデザインし、翌1891年1月にハマスミスの自宅そばのアップー・マル16番地のコテージを賃借して手引き印刷機を設置した。前年に老練の印刷職人（植字とプレスの工程を兼ねる）ウィリアム・ボーデンを雇い入れていた。当時還暦を迎えた頃で、引退していたのをモリスが請うて復帰してもらったのだった。さらに息子のW・H・ボーデンを植字工として雇った（3月にもう一人手伝いを雇う）。2月中に注文していた印刷用紙（ケント州のバチェラー商会製の手漉紙）が届き、活字も十分な量が揃った。モリスは1891年の春に体調が悪化するのだが、年頭の3か月ほどは念願の活版印刷の企図に乗り出したこともあって気力に満ちており、活字の揃いが鋳造所から届くと、喜びのあまり工房の活字棚に活字を並べる作業を手伝うことまでした。慣れない作業なので並べ間違えがあり、「しまった、また違う箱に入れてしまった」と独り言を言うのが愉快だったとボーデン（父）は回想している。「すこぶる上機嫌でした。それから出て行ったかと思うと〔徒歩数分の距離にある自宅から〕ワインを一本持って戻ってきました。ケルムスコット・プレスの前途を祝して乾杯しようというのです」。

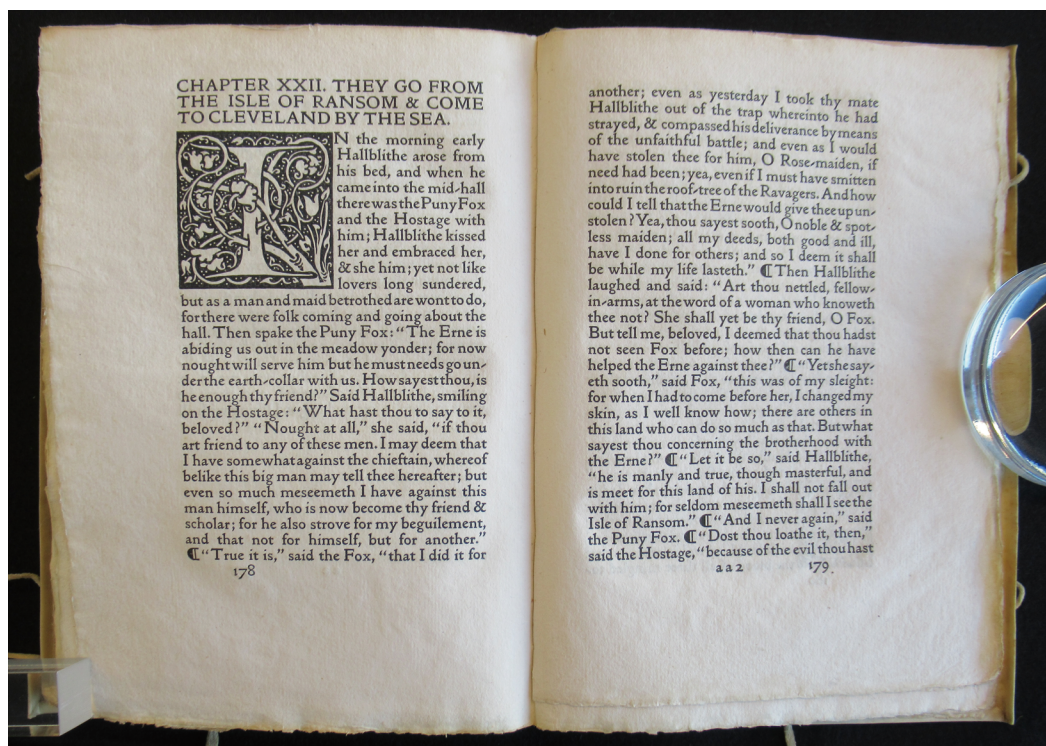
[KP版『黄金伝説』を取り上げた回](#)で述べたように、KPの最初の刊本として予定していたのは『黄金伝説』であったのだが、バチェラー社が最初に納入した印刷用紙は全紙サイズが16×11インチ（406×279mm）という小振りのものだった（桜草の透かし模様が入っていることからこれは「フラワー（1）紙」と呼ばれる）。そのため、4折判の『黄金伝説』には小さすぎて合わないということで、『黄金伝説』のためには倍のサイズ用の紙（「フラワー（2）紙」と呼ばれる。16×22インチ）を別途注文し、それが届くまでのあいだに別の本（5点）を刷ることとした。その最初にモリスが選んだのが自作のロマンス『輝く平原の物語』なのだった。書誌データは以下のとおりである。

KP書目第1番『輝く平原の物語』（*The Story of the Glittering Plain*）ウィリアム・モリス著。小型4折判（199×88mm）。192頁。ゴールデン・タイプ。厚ヴェラム装、鞆革紐付。紙刷本200部。ヴェラム刷本6部。奥付日付1891年4月4日。リーヴズ・アンド・ターナー社より1891年5月8日発売。価格2ギニー（紙刷本）、12ギニーおよび15ギニー（ヴェラム刷本）。

表題はさらに「その地は生ける人びとの国、もしくは不死なる者らの土地とも呼ばれた」（Which Has Been Also Called the Land of Living Men or the Acre of the Undying）と続く。モリスが1880年代半ばから書き出した散文ロマンスのひとつで、前年に『イングリッシュ・イラストレイテッド・マガジン』誌に連載（1890年6月号～9月号）したのが初出。主人公ホールプライズが誘拐された許婚を捜し求めて逃避者たちの住む〈輝く平原〉に行くという物語である。ウォルター・クレインがこれに挿絵を附すことになっていたのだが、一刻も早くKP本印刷に着手したいモリスは挿絵の完成を待ちきれず、結局挿絵なしの本になった。

挿絵なし、加えて見出しに赤インクも用いず、黒インクだけで、オーナメントについては、四隅に縁飾りを配した題扉、アクセントとしてのハーフボーダー、セクション冒頭での装飾頭文字といったもので、比較的抑制しており、むしろモリスが唱える「美しい印刷のための基本原則」に神経を集中させていることが確認できる。1893年発表のエッセイ「印刷」で、モリスはこう述べている。

美しい印刷のための「組み」でひとつ肝要なのは「スペイシング」、すなわち語と語の間の横の間隔である。〔…〕 ページの全体的な緻密さが大いに求められるべきものである。現代の印刷者は総じて間隔の「白」を多用しすぎる。おそらくこれは文字にこれといった特徴がないために陥らざるを得ない欠陥なのだろう。文字がくっきりと入念にデザインされ、各々の文字のかたちに確固とした個性があれば、語間をしっかりと詰めても明瞭度は失われないはずだ。〔…〕



ウィリアム・モリス著『輝く平原の物語』（ケルムスコット・プレス、1891年）。178-179頁。活字（ゴールデン・タイプ）、装飾頭文字のデザインはウィリアム・モリスの手になる（所蔵：日本女子大学図書館）

本を見た目に満足いくようにするためには、紙の上の版面の位置を考慮するべきである。ここでもまた、現代の流儀はほぼおしなべて自然な均整の感覚に反している。書物が最初に現在の形態をとるようになった時期から16世紀末、いや、もっと近年に至るまで、ページ上の版面は、余白をページの上部〔天〕と内側〔のど〕よりも下部〔地〕と外側〔前小口〕でより広く取るように組まれた。[...] 本の単位が見開き2ページとして考えられたのである。

1891年1月31日に『輝く平原の物語』の試し刷りを刷ったのがKPでの最初の印刷作業となった。前述の初出誌を底本としているのだが、初出の印刷面との大きな相違は、雑誌で改行によってページの右側に生じた版面内の「白」を避ける算段として、「段標」（paragraph mark; 段落の分け目を示す約物）を入れていること、また当時の商業印刷で慣習化されていた、語間（とくにセンテンス間）にスペースを入れるために挿入される鉛板の使用を極力避けて、語間を詰める処理をしている点である。これらの習慣を印刷職人に捨てさせるのにモリスは苦勞したと伝えられる。

KPの発足はこの第一刊本の出る前から評判になった。『アシニアム』誌のコラムに『輝く平原』の刊行予告の記事が出ると、販売元のリーヴズ・アンド・ターナー社に購入予約申し込みが殺到し、完成前にほぼ完売、幸先のよいスタートとなった。最初の購入者はモリス夫妻の友人のウィルフリッド・スコウェン・プラントで、彼の日記によれば、奥付日付の前日の1891年4月3日、モリスの自宅食堂にいると印刷職人が出来上がったばかりの本を1冊持ってきた。美しさに魅了されたプラントが「この本はどうされるのですか」と聞くと、「むろん売ります」とモリス。「では売ってくれますか」。「もちろん」。「おいくらでしょう」。「1ポンドで」。そこでプラントは1ポンドを支払い、本を持ち帰ったのだという。なお、『輝く平原の物語』は3年後の1894年にクレインの挿絵を附して新たに印刷している。これについては稿を改めて次号で検討したい。

（文学部名誉教授）

2023年度上代タノ平和文庫購入資料紹介

	請求記号	資料情報
1	327.172 B981	Pioneers for peace : Women's International League for Peace and Freedom, 1915-1965 / Gertrude Bussey, Margaret Tims. -- [2nd ed.]. -- WILPF, British Section, 1980.
2	210.75 Hay	原爆写真を追う : 東方社カメラマン林重男とヒロシマ・ナガサキ / 林重男, 井上祐子著. -- 図書出版みぎわ, 2023.
3	319.8 Kak	核共有の現実 : NATOの経験と日本 / 岩間陽子編. -- 信山社出版, 2023.
4	367.2 Ito	国際女性デーの世界史 : 起源, 過去, 現在, 未来 / 伊藤セツ著. -- 御茶の水書房, 2023.
5	319.8 Tat	戦うことに意味はあるのか : 平和の価値をめぐる哲学的試み / 佐藤香織 [ほか] 編著. -- 増補改訂版. -- 弘前大学出版会, 2023.
6	519.04 Miy	地球を壊す人, 救う人々 : 戦争と環境破壊連鎖の危機 / 宮田律著. -- 薫風社, 2023.
7	375.3 Yam	「特攻」を子どもにどう教えるか / 山元研二著. -- 高文研, 2022.
8	319.9 Has	国連平和構築の新たな課題 : 国連安全保障理事会はどう改革されるべきか / 長谷川祐弘著. -- 創成社, 2023.
9	936 Car	わたしは広島の上空から地獄を見た : エノラ・ゲイの搭乗員が語る半生記 / ジョージ・R・キャロン, シャロット・E・ミアーズ著; 金谷俊則訳. -- 文芸社, 2023.
10	369.37 Sen	戦争は弱者を犠牲にする / 金田茉莉, 前川喜平著; 海老名香葉子寄稿. -- くんぶる, 2023.
11	319.8 Suz	燃エガラからの思考 : 記憶の交差点としての広島へ / 柿木伸之著. -- インパクト出版会, 2022.
12	319.8 Kaw	僕の仕事は, 世界を平和にすること。 / 川崎哲著. -- 旬報社, 2023. -- (探究のDoor; 1).
13	392.1076 Nih	日本は本当に戦争に備えるのですか? : 虚構の「有事」と真のリスク / 岡野八代 [ほか] 著. -- 大月書店, 2023.
14	329.36 Ito	「国境なき医師団」をもっと見に行く : ガザ, 西岸地区, アンマン, 南スーダン, 日本 / いうせいこう [著]. -- 講談社, 2023. -- (講談社文庫; い65-6).
15	319.8 Kus	人間はなぜ戦争をやめられないのか / 日下公人 [著]. -- 祥伝社, 2023. -- (祥伝社新書; 671).
16	498.022 Nak 1	中村哲思索と行動 : 「ベシヤール会報」現地活動報告集成 / 中村哲著; 上 : 1983~2001. -- ベシヤール会, 2023.
17	304 Gun	いま, あなたに伝えたい。 : ジャーナリストからの戦争と平和, 日本と世界の大問題 / 軍司達男著. -- 一粒書房, 2023.
18	319.8 Hei	平和学事典 / 日本平和学会編. -- 丸善出版, 2023.
19	402 Kuh	科学革命の構造 / トマス・S・クーン [著]; イアン・ハッキング序説; 青木薫訳. -- 新版. -- みすず書房, 2023.
20	723.1 Shi	反戦平和の詩人四國五郎 / 四國光著. -- 藤原書店, 2023.
21	319.8 Mor	原爆の悲劇に国境はない : 被爆者・森重昭調査と慰霊の半生 / 森重昭, 森佳代子語り; 副島英樹編. -- 朝日新聞出版, 2023.
22	319.8 Kus	戦争と平和 : 子どもと読みたい絵本ガイド / 草谷桂子著. -- 子どもの未来社, 2023.
23	210.75 Kod	太平洋戦争の真実 : そのとき, そこにいた人々は何を語ったか / 神立尚紀著. -- 講談社ビーシー, 2023.
24	916 Kaw	女も戦争を担った : 昭和の証言 / 川名紀美著. -- 河出書房新社, 2023.
25	369.38 Bet	難民 : 行き詰まる国際難民制度を超えて / アレクサンダー・ベッツ, ポール・コリアー著; 金井健司 [ほか] 訳. -- 明石書店, 2023.
26	210.75 Kat	「特攻」のメカニズム / 加藤拓著. -- 中日新聞社, 2023.
27	395.39 Yas	なぜ市民は「座り込む」のか : 基地の島・沖縄の実像, 戦争の記憶 / 安田浩一著. -- 朝日新聞出版, 2023.
28	319.8 Zur	図録立命館大学国際平和ミュージアム : Peace X piece あなたのピースを探そう! / 立命館大学国際平和ミュージアム編. -- 合同出版, 2023.
29	393.25 I	兵役拒否の問い : 韓国における反戦平和運動の経験と思索 / イ・ヨンソク著; 森田和樹訳. -- 以文社, 2023.
30	369.37 Kat 1	語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心 / 京都「被爆2世・3世の会」編; 上巻. -- ウインかもがわ, 2020.
31	319.8 Wat	私たちの広島サミット : 被爆地から核廃絶を訴える / G7広島サミットを考えるヒロシマ市民の会編. -- 日本機関紙出版センター, 2023.
32	319.8 Shi	新・国際平和論 : 対峙する理性とヘゲモニー / 福富満久編著. -- ミネルヴァ書房, 2023.
33	369.37 Kat 2	語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心 / 京都「被爆2世・3世の会」編; 下巻. -- ウインかもがわ, 2021.
34	329.36 Shi	紛争地の看護師 / 白川優子著. -- 小学館, 2023. -- (小学館文庫; [し24-1]).
35	159 Mur	「国境なき医師団」の僕が世界一過酷な場所で見つけた命の次に大事なこと / 村田慎二郎著. -- サンマーク出版, 2023.
36	223.107 Has 1	ヴェトナム : 壮大な悲劇1945-1975 / マックス・ヘイスティングス著; 平賀秀明訳; 上. -- 白水社, 2023.
37	289.1 Mat	特攻隊員だった父の遺したもの / 松浦寛著. -- 高文研, 2023.
38	319.8 Hir	君たちは平和をどう守るのか : 95歳, 元広島市長からのメッセージ / 平岡敬著. -- 南々社, 2023.
39	319 Ric	平和理論入門 / オリバー・リッチモンド著; 佐々木寛訳. -- 法律文化社, 2023.
40	223.107 Has 2	ヴェトナム : 壮大な悲劇1945-1975 / マックス・ヘイスティングス著; 平賀秀明訳; 下. -- 白水社, 2023.
41	302.2799 Nek	平和に生きる権利は国境を超える : パレスチナとアフガニスタンにかかわって / 塚塚義夫, 清末愛砂著. -- あげび書房, 2023.
42	P 327.1 W	SIPRI yearbook : world armaments and disarmament / Stockholm International Peace Research Institute. -- 1972 (1972)-. -- Almqvist & Wiksell, 2023.
43	P 327.1 W	SIPRI yearbook : world armaments and disarmament / Stockholm International Peace Research Institute. -- 1972 (1972)-. -- Almqvist & Wiksell, 2022.
44	P 327.1 W	SIPRI yearbook : world armaments and disarmament / Stockholm International Peace Research Institute. -- 1972 (1972)-. -- Almqvist & Wiksell, 2021.
45	323.142 Ito	非戦の誓い : 「憲法9条の碑」を歩く / 伊藤千尋著. -- あげび書房, 2022.
46	319.8 Oku	迫りくる核戦争の危機と私たち : 「絶滅危惧種」からの脱出のために / 大久保賢一著. -- あげび書房, 2022.
47	543.5 San	3.11からの平和学 : 「脱原子力型社会」へ向けて / 日本平和学会編. -- 明石書店, 2023. -- (シリーズ「文明と平和学」 / 日本平和学会編; 1).
48	P 327.1 W	SIPRI yearbook : world armaments and disarmament / Stockholm International Peace Research Institute. -- 1972 (1972)-. -- Almqvist & Wiksell, 2020.
49	P 327.1 W	SIPRI yearbook : world armaments and disarmament / Stockholm International Peace Research Institute. -- 1972 (1972)-. -- Almqvist & Wiksell, 2019.

50	P 327.1 W	SIPRI yearbook: world armaments and disarmament / Stockholm International Peace Research Institute. -- 1972 (1972)-. -- Almqvist & Wiksell, 2018.
51	319.8 Hei	平和の種が見つかる絵本55 / 中本晶子編著. -- 高文研, 2023.
52	319.8 Aut	平和をつくる方法: ふつうの人たちのすごい戦略 / セヴリーヌ・オートセール著; 山田文訳. -- 柏書房, 2023.
53	319.8 Oku	「核兵器廃絶」と憲法9条 / 大久保賢一著. -- 日本評論社サービスセンター, 2023.
54	319.8 Asa	核不拡散と核軍縮の国際法 / 浅田正彦著. -- 有斐閣, 2023.
55	404 Nai	核なき世界への道 / 内藤酬著. -- 北樹出版, 2023.
56	404 Nai	地球社会学の構想 / 内藤酬著. -- 北樹出版, 2023.
57	219.906 Ish	Basic 沖縄戦『沈黙に向き合う』: 沖縄戦聞き取り47年 / 石原昌家著. -- インパクト出版会, 2023.
58	319.8 Kak	バット剥ギトッテシマッタ後の世界へ: ヒロシマを想起する思考 / 柿木伸之著. -- インパクト出版会, 2015.
59	914.6 Hig	ヒロシマ・ノワール / 東琢磨著. -- インパクト出版会, 2014.
60	289.3 Ros	私はカーリ, 64歳で生まれた / カーリ・ロースヴァル, ナオミ・リネハン著; 速水望訳. -- 海象社, 2021.
61	319.8 Hei	「平和宣言」を英語で読む: ヒロシマの心 = Hiroshima Peace Declaration / 帝京大学出版会編. -- 帝京大学出版会, 2023. -- (帝京新書; 001).
62	910.264 Kaw	広島(ヒロシマ) 抗いの詩学: 原爆文学と戦後文化運動 / 川口隆行著. -- 琥珀書房, 2022. -- (鹿ヶ谷叢書; 001).
63	319.530273 Ira	イラク戦争を知らない君たちへ / イラク戦争の検証を求めるネットワーク編. -- あげび書房, 2022.
64	319.380386 Fuk	9条とウクライナ問題: 試験に立つ護憲派の混迷を乗り越えるために / 深草徹著. -- あげび書房, 2022.
65	319.8 Sat	中村哲という希望: 日本国憲法を実行した男 / 佐高信, 高世仁著. -- 旬報社, 2024.
66	333.82587 Yos	「わかり合えない」からはじめる国際協力 / 吉岡大祐著. -- 旬報社, 2024. -- (探究の Door; 3).
67	319.8 Cho	「核なき世界」を願って: 消えゆく被爆者の祈り / 長曾我部久著. -- 花伝社, 2024.
68	319.8 Kaw	戦争ができる国からの解放: 日本と世界を変えなくては平和は獲得できない / 川本兼著. -- 三一書房, 2024.
69	210.75 Sok	疎開生活壱ヶ年のあしあと: 昭和二十年九月一日: 朝来郡田分教場神戸市須佐校 / 「疎開生活壱ヶ年のあしあと」文編集委員会編. -- 日本機関紙出版センター, 2023.
70	498 Hei	平和村で働いた: ドイツで出会った世界の子どもたち / 川村幸輝 [ほか] 著. -- あげび書房, 2021.
71	319.380386 Sok	即時停戦!: 砲弾が私たちを焼き尽くす前に / 土田修編著; 和田春樹 [ほか述]. -- 社会評論社, 2023.

配列は受入日順

「上代タノ平和文庫」は、旧図書館の開設を主導した当時の第六代学長上代タノ先生が、本学の創立70周年を記念して寄贈した蔵書を基に創設された。国際情勢や国際知識を学べるようにという上代の遺志を継ぎ、現在も収集が続けられている。この表は2023年度中に購入された資料の一覧である。図書館4階に設置され、一般図書と同様に貸し出しができる。

図書館でお待ちしています！

春は出会いの季節…新入生の皆様、初めまして。そして再会の季節…卒業生・旧専任教職員の皆様、おかえりなさい。本学の学生・教職員・卒業生・旧専任教職員など利用資格をお持ちの方は当館を利用できます。当館 HP の開館カレンダー詳細情報を確認して、ご来館ください。

2階（エントランス階）カウンターで学生証・教職員証をご提示ください。卒業生・旧専任教職員は身分証不要です。バーコードがある学生証はそれを図書館システムに登録し、それ以外の方には利用カードを交付します。入館や貸出に必要な学生証及び利用カードは本人のみ有効です。

当館は開架式です。直接書架へ行く前にOPACで本学の蔵書を検索し、配置場所と請求記号を調べましょう。資料は、和書、洋書、雑誌、参考図書、大型本など、その性質や形態によってまとめて配置されていますが、同じ請求記号でも配置場所（例：図書館目白／図目集密／図目通信／図目上代）により目指す階が異なります。また、西生田保存書庫資料は図書館へ取り寄せて利用できますが、研究室資料は図書館にはなく各研究室利用規則に従ってのご案内となります。

資料の検索方法がわからない、必要な資料が見つからないという時は、2階カウンターの隣にある参考係に相談してください。皆さんの必要とする文献や情報を探し出すサポートをします。

JWU ラーニング・コモンズさくらでは、図書館の資料やDBを使って様々な学修活動を行い、ラーニング・サポーター（専攻推薦を受けた本学大学院生）に学修相談することもできます。

詳細は当館 HP でご確認ください。お待ちしております！

日本女子大学図書館ホームページ <https://lib.jwu.ac.jp/>

日本女子大学図書館 X https://x.com/JWU_Library



(館員・中澤恵子)

「挑戦」を応援する図書館

荒木 奈々

新入生の皆さんはこれから始まる大学生活にどのような期待を膨らませていますか。

「サークルに入りたい」「資格を取りたい」「趣味の時間に費やしたい」色々な目標がある人も多いのではないのでしょうか。私も入学当初は迷いながらも興味のあるものはすべて挑戦しようと意気込んでいました。その中で始めた司書課程の講義では、図書館経営の仕組みから本が利用者に届けられるまでに加え、生涯学習などの「専門知識+α」を学ぶことができました。楽しく勉強するうちに、それまであまり本に興味のなかった私にとって図書館が身近な存在となりました。

大学生は、自由度が高く制限が少ないので、さまざまな挑戦をした分だけ世界が広がると思います。そしてその挑戦を後押ししてくれるものの一つが図書館です。レポート課題で困った時や分からない問題に直面した時など、図書館が大学生活の大きな助けになるのはもちろんのこと、ほんの少しの心の変化や悩みがある時、誰かを介する必要なく寄り添ってくれる場所でもあります。

また、「本」はその一冊を作るために多くの人が関わり、長い時間をかけて私達の手元に届けられています。インターネットで必要な情報が簡単に手に入る現代での本の意義とは、やはり、読者に届くまでに大きな苦労があるということ、読者が現物を実際に手に持つことができるということではないのでしょうか。そして何より、学生に向けて厳選された図書の集まる大学図書館は、何かに挑戦する過程で皆さんの悩みを解決する大きな助けになるはずです。

日本女子大学の図書館は、太陽の光が差しこみ、明るく、多くの学生が利用してとても良い雰囲気なので、大学の中できっと居心地の良い場所になるのではないのでしょうか。ぜひ、図書館を活用しながら、分野を問わずさまざまなことに挑戦し、充実した大学生活を一緒に送みましょう。（史学科・1年次学生）

先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★先輩からひとこと★

図書館での学び

半田 智祥

大学に入学してから6年が経とうとしているが、振り返ると図書館には常にお世話になってきた。レポートの作成、テスト勉強、課題の調べものなど、新入生の皆さんもこれからたくさん図書館を利用することになると思う。

地下1階から地上4階までである本学の図書館は、階によって雰囲気が違う。集中して勉強したいときは地下の机で、行き詰ったら4階から外を見ながら考える、というように気分によって場所を移動するのが良いところだ。ぜひ図書館の中で自分のお気に入りの場所を見つけてみてほしい。図書館内を歩いて気になる本を見つける、ということも新たな学びにつながるし本との意外な出会いがあるので、気分転換したくなった時におすすめしたい。

また、図書館にはJWUラーニング・コモンズさくらというスペースがあり、友人と声を出しながら学修に取り組むことができる他、ラーニング・サポーターに学修相談を行うこともできる。ラーニング・サポーターになってから約1年半の間、様々な学修相談を受けてきた。中には他学科のレポートや専門外の課題について相談を受けることもあり、その度に相談者と一緒に考え、悩みながらの対応だったが、自分の知らない知識を得る機会でもあったし、相談者と話すことで新たな視点に気付くことも多かったため、相談を受けながら自分も学ばせてもらっていた。ラーニング・サポーターが行うオンラインミニ講座もサポーターによって内容が様々で、同じサポーターの立場でもとても勉強になった。学修面だけでなく大学生活を送る上でのヒントになるかもしれないので、少しでも気になったらぜひ聞いてみることをおすすめする。

大学生活では、自分の興味を大切にしてほしい。今持っている興味を大切に、そこからさらに興味を広げられるよう、図書館、ラーニング・サポーターを活用して、皆さんが学びの多い大学生活を送ることができるよう願っている。（人間社会研究科関連文化論専攻博士課程・前期2年次学生）

編集後記 日常の光景からご専門へ、館内マナーへ、巻頭言の坂本館長の視点の変化はお人柄のように幅広く鮮やかです。著作紹介、飯田先生は食物学科の調理実習書をその歴史を交えて、また桑嶋先生は大学で学ぶ姿勢の基本を示しながら、ご紹介いただきました。二人の学生さんには図書館への思いを伝えてもらいました。窓の外に目をやれば、寒波の冬は去り春の息吹が感じられます。巻頭の写真は2019年3月まで館員の我が家だった旧図書館と今も毎年花を咲かせている桜。 2024年度編集委員：飯山智子、水嶋寿恵、南木香織（飯山）